

第1回四日市市子ども・子育て会議 議事概要

日時：令和2年11月5日（木）

午後6時～午後8時

場所：四日市市総合会館7階 第3研修室

①四日市市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について

事務局より資料1～3について説明。

○質疑応答

【会長】

資料1から3まで説明いただいた。

まず、この資料1でご質問、ご意見等はいかがか。

【委員】

2頁の新制度における主な取り組みについて、認定こども園は今後何か所ぐらい増やす予定があるのか聞かせていただきたい。

【事務局】

平成29年度から橋北、塩浜、そして今年度保々地区で新たにこども園を開園している。

現在の予定では、令和3年4月は楠地区に、そして令和4年度には神前地区に開園を計画している。

【委員】

延べ5園ということか。

【事務局】

そのとおり。

【委員】

その後、まだ増やしていく予定はあるか。

【事務局】

現在は今申し上げた園数であり、公立幼稚園の適正化計画に基づいて進めているところである。

【委員】

公立幼稚園でも園児数が減っていると聞いている。例えば神前幼稚園など、こども園に移行するまでに、その園児をどのようにサポートしていくのかお聞かせいただきたい。

【事務局】

就学前の子どもたちについては、遊びを中心に子ども達の集団を確保して園運営を目指しているところ。

紹介のあった神前幼稚園は、現在3名の園児がいる。令和4年度にはこども園化の計画があり、4、5歳児は神前保育園と一緒に合同保育を行い、就学前教育・保育を実施している。

【会長】

早急に子どもが集団で生活できるようにしてあげるとよい。

私は、4頁の人口の問題で、減り続けているところが非常に気になる。子育て支援も含めて一生懸命頑張っているが、それがなかなかプラスになっていかない。これは四日市だけでなく全国的な傾向である。昨年度の合計特殊出生率は1.36で、政府が目指す1.8には到底及ばない。やはり財政的な問題も非常に深刻で、なかなか難しい点もあるかと思うが、こういったところが四日市で影響が出ているなどというのはこの表からわかる。そのあたりをもう少し対応し、分析していく必要があるかと思う。

それでは、資料2についてご意見等はいかがか。

【委員】

ファミリー・サポート・センター事業のところ、地域で差があり、援助会員の方が少ないという話があった。援助会員への保障として、最低賃金が随分高くなっているのに、長い年数700円という金額が変わっていないという話を聞いている。その金額を上げたらどうか。

また、車で送迎することが増えていると思うが、事故等が起きたときに個人の保険で補償しなくてはいけなかったと思う。その辺りについてもお聞きしたい。

【事務局】

昨年度の会議でも、同様のご意見を頂戴し、援助会員不足の一因ではないかというご意見を頂戴したところ。一方で、依頼会員が利用しやすいようにというところもあり、依頼会員の利用のしやすさと援助会員の利用料引き上げとを両立させる方法について、今後十分検討した上でお示しできればと考えている。

また、援助時の事故等については、ファミリー・サポート・センターで保険に入っているだけであり、カバーできる範囲について検証してまいりたい。

【会長】

このあたりは早急に改善していただきたい。

他に意見等はいかがか。

【委員】

8頁の一時預かりについて、第2子出産以降子育てレスパイトケア事業をされていると思うが、こちらの数字はレスパイトケア事業の人数も含んでいるのか。

それと、この第2子以降子育てレスパイトケア事業は、どのぐらい浸透しているのか。先日も地域で、1歳と、その上にも子どもがいるご家庭にこの事業のことを話すと把握していないようだった。また、レスパイトケアを使うことに罪悪感を持たれている保護者の方もいるという話も伺っている。

【事務局】

第2子以降子育てレスパイトケアについては、我々も広報に力を入れてきており、例えばホームページでは多胎児の方でも利用いただけることをわかりやすく示したり、母子健

康手帳別冊で広報するなど努めてきたところだが、ご指摘いただいたように広く皆さんに知られるというところまでは至っていないところ。ただ、毎年アンケートを取っており、制度を知らなかったため申請できなかったという方が、2年前のアンケートだと296名中153名だったのが、昨年は62名に減少している。

また、利用への罪悪感について、お母さんの育児負担を減らしていただくための事業なので、罪悪感を持つことなく利用しやすいよう、併せて努めてまいりたい。

利用数について、平成28年度当初は237件だったものが、29年度には291件、30年度には309件と、少しずつ伸びてきている。令和元年度には257件と若干利用が落ち込んだが、引き続き広報・周知していきたい。

なお、一時保育の実績は第2子以降子育てレスパイトケア事業を含んだ数字となっている。

【委員】

認定こども園について、高花平幼稚園も認定こども園になると聞いている。高花平幼稚園が認定こども園になるのか、それとも私立保育園に吸収されるのか。

P T Aの関係があるのだが、幼稚園の園長や代表からは、どうなるかわからないと聞いている。

【事務局】

ご発言いただいたように、高花平地区でも来年度こども園化の予定である。ただ、先に説明した5園と異なるのは、社会福祉法人によるこども園化であり、高花平幼稚園のお子さんの受け皿として、私立保育園が来年度4月にこども園になるという計画である。

【会長】

子育て短期支援事業、ショートステイ事業の担当施設長に来ていただいているので、お話を伺わせていただきたい。

【委員】

児童養護施設なので、基本的には三重県の児童相談所を通して、措置という形で子どもが来て、施設で生活する。定員は、児童養護施設が50名、乳児院が25名となっている。

児童相談所から来る子どもとは別に、各市町との契約で子育て短期支援事業としても支援している。実績は資料2の11頁のとおり、令和元年度で延べ利用数592人。ショートステイの大半が母子家庭の方、生活保護を受けている方ということで、経済的にも困窮の方が多家庭からのお子様を7日を限度として預かっている。

コロナの影響で、令和2年度4月当初は園内の感染予防も含めて一旦ショートステイは期間を空けさせていただいたが、コロナであっても基本的には緊急性が高い地域のお母さんたちを抱えており、学校、保育園へ行けていない家庭のお子さんなので、その預かる頻度はますます増えているという状況だった。そのため、4月当初は自粛したが、その後は、やはりリスクはあっても継続して受け入れさせていただいている。

これに加えて、児童相談所から一時保護という形で子どもが入ってくる。当園は、6名定員の一時保護専用施設を別棟で持っている。万一感染したときに問題があるということで、一時保護の子どもとショートステイの子どもを6名定員の一時保護棟で預からせていただいたため、本来、児童養護のショートステイは5名枠、乳児で2名枠で計7名は取れるが、一時保護棟の6名定員の枠の中で受けさせていただいたため、定員よりも少なく受ける形でやっている。

しかし、四日市市が一番多いが、毎日のようにショートステイの問合せや1、2か月先の予約がある。最近特に多いのは、出産を控え、出産時に上の子どもを見てもらえる人がおらず、その間ショートステイで見たい、というケースである。

【会長】

児童福祉施設の中の状況はわかりづらいためお聞きした。非常に大変な状況だということを知ることができた。

このことも含めて、やはり子どもたちの居場所というのをきちんと大人が保障していかないといけない。そういった意味で、こういった事業も含め、安心して子どもたちが生活できるところが非常に重要だなと思っている。このあたりも、これから出席していただけてまたいろいろお話を伺わせていただくと大変ありがたい。

【委員】

12頁の病児保育所について、今現在3か所ある。③の今後の方向性の中に、病児保育室を令和3年度4月開室に向けて準備を進めていきます、とあるが、これは4月には開室

が確実にできる方向で動いているのか。

【事務局】

4か所目の病児保育室について、こちらは今年度予算も議会で認めていただき、事業を受けていただく予定の医療法人の整備工事も順調に進んでいると聞いており、来年度4月開室に向けて進めているところである。

【委員】

学童保育について、需要はどんどん高まっているのではないかと考えている。人材育成について拡充というところがあったが、具体的にどういう方に対してどうやっていくのか教えていただきたい。

【事務局】

これまでも、お子さんへの接し方や発達等、様々な分野の研修を受けていただいたところだが、昨年度ごろから、テーマを階層別にしたリ、連続講座の検討などを行った。

今年度以降は、初任者向けの研修を何回か受けていただき、それから5年程度実務を積んで中級者向けの研修を受けていただくなど、運営や指導員の皆様のご意見を頂きながら研修を体系化していきたいと考えている。

【委員】

一生懸命やっていたらいいのはよくわかる。研修に参加いただく方というのは、基本は自ら手を上げるような形になるのか。

【事務局】

こども未来課からも各学童保育所にお声がけさせていただき、皆様から手を挙げていただいで研修を受けていただいているところ。

【委員】

学童保育の研修等、学童保育係ができたことですごく充実していると思う。

ただ、子どものことは本当に幅が広く、ある程度研修を受けただけで子どもに向き合え

るかという、今は発達に課題がある子どもも幅広く、専門的な知識も必要になってくると思う。

大学との連携や、臨床心理士など専門性のある方の派遣も含め、学童の指導員だけに任せるのではない支援が今後は必要になると感じており、ぜひ考えていただきたい。

【会長】

研修のあり方が今問われているだろうと思う。保育所とか幼稚園の先生を対象にした研修会などでも、年間計画の一つとして行われているような気がしている。私たちが一生懸命話をして、一生懸命聞いているのは前の3列ぐらいまでで、感想を読んでもなかなか伝わっていない。ポイント制のように、先生自身が一つ一つキャリアアップできるような研修のあり方というのを今後きちんと組み立てていかないといけないのではないかと思う。

今度は資料3について、ご意見等はいかがか。

【委員】

民生委員について、8頁の下から2つ目に、民生委員・児童委員による相談というところがある。2つ目、民生児童・児童委員の受けた子どもに関する相談件数で、平成30年度は5,557件、令和元年度で4,823件とあるが、この件数はどこから出てきたものか。我々がつけている活動報告書の中の相談に関する項目の件数ではないかと思うが、そこには子どもから高齢者、障害者も含めて相談件数を書いているので、その中の件数がこの件数なのか、それともまた別なのかどうか。

【事務局】

本日の会議に担当課が出席しておらず、詳細をお答えできないが、各民生委員から上げていただいた活動報告などの集計によるものと思われる。

【委員】

学童保育でA評価が2つある。確かに単独で学童保育係ができたところは珍しい。以前に比べ、今はスピーディーにやっていただいております、補助金もいろいろ変わって、A評価をつけているのもわかる。

それから、三重県の子ども・子育て会議で出された学童保育所の待機児童数を見ると、

令和元年度の55名中、四日市市は27名であった。三重県の中の半数以上が四日市市であり、令和2年度も66名中23名が四日市市だったのだが、なぜ待機児童が生じたかという理由として、指導員が高齢であり、多くの児童を保育することが困難であると書かれていた。先ほどの研修の話も連動すると、高齢だから預かれないというのはちょっとな、と思う。

研修のあり方も考え、指導員の確保につなげなければいけない。今年度、研修を経験年数で分け、コロナ禍の中でオンラインも含め研修を増やしていただいたことはありがたいが、学童保育所間の格差は広がっていて、いいところだけが充実していく。例えば補助金も利用できるところだけが利用していくという現実を考えれば、指導員の確保や研修の内容など、制度をあげ、数を増やせばいいものではないとしみじみ感じる。

もう1点。資料2で、新設や移転に際し、学校の校舎や敷地、学校周辺の公共施設の活用を積極的に進める、とあるが、法令ができてようやく学校の敷地内、学校の中がいいところとなったところが強く、四日市市は長い間学校敷地内を認めていなかったために、学校外に、それも自力で建てていったところがたくさんある。その移転はとても難しいと思うので、どのようにこれからサポートしていくかお聞かせいただきたい。

【事務局】

学童保育所の皆様には、地域の方、保護者の方を中心として、民間の方で運営いただいております。大変お世話になっているところ。ご意見いただいたように、A評価とさせていただいたが、まだまだ至らないところがある。

1つは、格差について。それぞれ地域の特色を生かして運営いただいております。良いところもある反面、格差があるところも事実かと受け止めている。その中で待機児童についても、増え続けていく需要に対応する支援をしっかりとさせていただかないといけない。

それから、研修について、指導員の方に一生懸命やっただけでいい中、しっかりそれをサポートするような研修体制も充実させていただきながら、保育の質というところも確保していかなければいけないが、ご指摘いただいたように、各学童保育所も、指導員の方を始めとした高齢化に悩まれているところが多くある。ベテランの方だけでなく、新しい方にも入っていただきやすいよう、処遇改善にも今年度から特に力を入れて取り組んでおり、量の対応、質の確保、処遇改善について引き続き充実に努めてまいります。

また、公共施設の活用について、以前は学校敷地外に建てていただいているところがほ

とんどだった。国も、新・放課後子ども総合プランでようやく学校施設を積極的に活用していきましょうというところを打ち出し、四日市市も今年度からの総合計画の中で、学校施設の積極的な利活用についてようやく明記して努めているところ。既に学校敷地外に建っているところをこれから敷地内に移転するというのはなかなか難しいところがあるかと思うが、新たに増やしていただくところには、学校の教室や敷地内に建てていただくことを選択肢の1番に入れ、教育委員会や学校、関係機関等の協議にこども未来課も努めさせていたいただきたいと思っている。

②コロナ禍における子育て支援事業の取り組み等について

事務局より資料4について説明。

【会長】

今年はコロナの影響で生活が大分変わったのではないかと思う。皆さんの職場もそうだったと思うし、子どもが最も大きな影響を受けたらろうというのは、見ていてよくわかる。

こういう状態が長く続くと、お互いにストレスになってくる。ちょっとしたことでいがみ合ったり誹謗中傷が起きたりと、とにかくもう少し何とか状況が変わってほしいが、なかなか良くならない。そういった意味で、こういった取り組みを積極的に進めてもらい、少しでも安心できるような生活を事業の中で取り組めるようにしていただきたい。

この内容について、ご質問等はいかがか。

【委員】

私立幼稚園のことがここには上がっていないなと思ったので、取り組みについて少し説明させていただきたい。

もちろん私立幼稚園は各園独自の動きがあるが、そうした中でコロナの対策をしてきた。特に3月から春休みに向けての取り組みの中で、自主登園をしていただきながらバスも回して幼稚園をやっていたという状況である。

緊急事態宣言が出てからは、幼稚園としては休園となるわけだが、やはり保育の必要なお子さんはみえるので、そういった方のみ預かり保育をしていた。園によってやり方はそれぞれ違うので、給食は作ってもらえない状況で、飲食は全てお弁当という形で保護者の方に負担していただきたきながら進めている。

その中で、公立幼稚園・小学校が始めることに関して、私立幼稚園になかなか連絡が入ってこないといった話が私立の園長先生方からあった。保護者さんや職員から「園長先生、メールが入ってきたよ。公立はこうやっているよ、小学校はこうやっているよ」と聞き、そこから私立幼稚園は動き始めて一歩遅い、という状況があったので、私立も公立も関係なくきちんと状況が把握できるようにしていただきたい。そこから独自に考えればいいことだと思うので、同じように進めていけるとよかった。今後もどんな状況になるかわからないので、そのように進めていただけるとありがたい。

それと、いろいろ援助していただきありがとうございます。マスク等々頂き、それを活用させていただいている。

四日市市では、給食のときの幼児に向けた衝立に関してはまだ考えていないのか。ほかのところには入られているかもわからないが、もしあれば教えてほしい。

【事務局】

資料で紹介させていただいたのは主に公立の内容だったので、私立幼稚園の現状を委員からご報告いただき、ありがとうございました。

衝立等の補助金については、資料7頁の②に記載されており、私立保育園、地域型保育事業所、子育て支援センター等に対する包括的支援となっている。私立幼稚園、認可外保育施設については三重県が管轄すると聞いており、コロナに対応する用品等の補助金はそちらが該当してくるのかなと考えている。

もう1点、今回のコロナ禍において私立幼稚園への情報が遅かったのではないかとこの指摘を頂いた。各園ではそういう状況だったことをお詫び申し上げる。

なお、例えば4月15日からの公立幼稚園、公立こども園（教育認定）の臨時休業について、市としては4月10日金曜に決定しているが、その際に私立幼稚園協会会長に連絡を行い、翌週月曜日には面談させていただくなどしており、今後もより一層連携を努めてまいりたい。

【会長】

確かに公立も私立も子どもには関係ない。情報が伝わらないと、不安ばかり募るので、正しい情報がスムーズに流れるようなシステムをきちんとしておく必要があるだろう。

【委員】

コロナ禍においては、消毒液をはじめとする多くの支援を頂き、とても感謝している。今後、これから冬に向けて怖い思いもあるので、引き続き支援をお願いしたい。

私は、昨年4月にオープンした保育園に勤務しているが、コロナでお亡くなりになられた方がいたという情報が入った翌日から、約100名の在籍園児に対して20数名と、登園する園児ががたっと少なくなってしまった。皆さん怖いという思いもあるのかなと調べていくと、濃厚接触者がうちの園にいるという噂話があったことがわかり、ありもしない情報というのは怖いなど身をもって実感した。

保育園に入れない待機児童問題としては、たくさんの保育園、施設をつくっていくことも四日市にとっては必要かと思うが、保育士不足がいつも議題に上がる。そちらは各私立保育園の努力だけでは何ともならないところもあると思うので、四日市市の皆さんと各施設の協力も頂きながら保育士の確保に努めていけたらなと思っている。

【会長】

直面している様々な問題を指摘していただいた。

それぞれの委員の方たちがそれぞれのお立場で報告をしてくださったということで、私も大変勉強になる。皆さんいろいろ大変だったと思うが、今後も子育て支援事業を含めて現状をいいものにしていくということから、適切なお意見をいただきたい。

以上